

# LEADERS NOW!



49erFXの練習風景 (JSAF 提供)

「リオ五輪でヨットと私の存在を知ってもらいたい。49 erFXというスピードの速い派手な船の魅力を伝えたい」。ブラジル・リオ五輪出場を決めたばかりの高野さんは、自分に言い聞かせるように目を輝かせた。3月にアラブ首長国連邦で開催されたアジア選手権大会に、宮川恵子さん(和歌山セーリングクラブ)とペアで出場し、49 erFXで優勝。最終レースまでもつれた激しい展開を制し“五輪切符”を手中に収めた。セーリング競技では史上最少での五輪出場への偉業を成し遂げた。

49 erFXは2人乗りのディンギー(キャビンを持たない小型船舶)で、少しの風で瞬時に加速するなど操作が難しい種目。「船のスピードがすごく速くて、2人で激しく動き回りながら操ります。ちょっとした水しぶきでも体ごと持っていかれたり、船から落とされてしまうこともありますよ」。49 erFXは見応え十分の手に汗握るレース展開から「海上のF1」と呼ばれている。高野さんの名前・芹奈の由来は故アイルトン・セナから。元カーレーサーの父が、「音速の貴公子」として知られたF1ドライバーの大ファンで名付けられた。アイルトン・セナは高野さんが生まれた時には既に他界していたが、家庭ではよく話題にのぼり、DVDを鑑賞する機会も多かったという。「セナは本当に格好良くて、オーラがありますね」。

ヨットとの出会いは突然訪れた。水泳部を引退した中学3年の秋、友達に「ちょっと乗ってみたい?」と兵庫県新西宮ヨットハーバーに誘われた。「風があるのに、船が海上を真っすぐ進むことが不思議。こんな世界は見たことがない」。帰宅後、母に「ヨットをやる!」と決意表明すると、その後は一心不乱に練習に励んだ。「高校で何をしようか?」との漠然とした思いは、ヨットを究める



◀アジア選手権大会2016のレース風景 (JSAF 提供)

## リオ五輪で存在感をアピール

49erFXは「海上のF1」ヨット界のセナを目指す

●人間健康学部 1年次生  
高野 芹奈 さん

リオデジャネイロ五輪セーリング競技のスキフ49erFX級に、日本代表として出場する高野芹奈さん。ヨット界の五輪出場記録を塗り替える史上最年少の18歳は、すべての面で自己管理できるアスリートを志し、今春人間健康学部へ入学。「海上のF1」と呼ばれる激しいレース展開が魅力の49erFXで、ヨット界のセナを目指す。リオ五輪で経験を積み、2020年の東京五輪で表彰台に上る壮大なストーリーが幕を開ける。

という鮮明な目標へと変わっていた。

競技開始から3年余りでの快挙について、「ヨットを究めたいという直感を信じ続けることが成功の秘訣かもしれません。そして、水泳部時代の体幹トレーニングも体づくりに役立ったと思います」と冷静に自分自身を分析する。刻一刻と変化する大自然が相手。「毎回状況が変わるので飽きることはありません。予測不能のハプニングに頭と体を使って対処していくことが楽しいですね。天候もそうですが、風や海面を肌で、目で、耳で感じて、その時の状況を判断します」。舞台は慣れ親しんだ日本からブラジルへ。今後は五輪本番に備え、リオやドイツ・キールに遠征する。「海外の選手と戦うための筋力や動き、どのような風でも乗りこなせる技術を磨きたい」。

他競技にも精通するアスリートを目指し、体の仕組みや食と栄養の知識を学ぶため、人間健康学部へ進学した高野さん。リオでの目標は15位。「『メダルをとりたい!』と言いたいです、日本の現実は20カ国でも最下位レベル。正直なところ15位でも厳しいですが、5チームは抑えて日本に帰ってきたいです。リオ五輪でヨットと私の存在を知っていただき、2020年東京五輪で表彰台に立ちたいです。『ヨット界のセナ』と呼ばれるようになりますね。ダイヤの原石が今夏、リオで輝く。



高野 芹奈—たかの せな  
■1998年、大阪府大阪市生まれ。関西大学第一高等学校卒業。人間健康学部1年次生。体育会ヨット部所属。2014年全国高等学校総合体育大会2位、15年420級世界選手権大会ジュニア部門1位(女子総合3位)、16年49erFXアジア選手権大会1位でリオ五輪出場決定。セーリング競技代表選手では、史上最年少。

## 原点は映画とダンス オールマイティを目指して

自分革命を起こして面白い存在になりたい

●よしもとクリエイティブ・エージェンシー 芸人  
ゆりやんレトリィバァ さん —文学部 2013年卒業—

エンターテインメントを総合的に展開する吉本興業。「吉本芸人になる!」との幼少期からの夢をかなえたゆりやんレトリィバァさんは、大学在学中から言葉で、表情で、動きで、雰囲気でも独特の存在感を発揮し、全身全霊を注ぎ“笑い”を届けている。

「Oh my God!」。ネイティブ顔負けの英語力とキレのある動きのコントで、飛ぶ鳥を落とす勢いのゆりやんレトリィバァさん。幼少期からの夢だったよしもとクリエイティブ・エージェンシーに所属する女性芸人は、大学在学中に「NSC大ライブ2013」で優勝するなど輝かしい実績と、副賞の仕事で埋め尽くされたデビュー月のスケジュールを胸に、芸能界に挑んだ。

「本当に田舎で歴史の教科書に載るような所に住んでいました。マンションなんて一棟も無いですよ」。奈良県吉野郡、近鉄吉野線大和上市駅から約12km離れた実家生活を豪快に笑いながら振り返る。ご近所さんや子供たちはほぼ全員が顔見知り。母との外出時に近所の人から「有里ちゃん、よう肥えてんあ」と言われるたびに、愛想笑いを浮かべながら陰で母の体をつねっていたと言う。小学校、中学校ともに同級生は12人。祖父の教えで幼児言葉を一切使用することなく育ったおかげか、国語は得意。「ナイチンゲールなど偉人の漫画を良く読んでました。って、漫画かいっ!」と一人ツッコミも慣れたもの。テレビ画面を通じてお茶の間に“笑い”を届ける吉本新喜劇が何よりも楽しかった。島田珠代さん、山田花子さんの躍動する姿に感銘を受け「いつかは私も吉本に入るんや」と小学校低学年で決意していた。

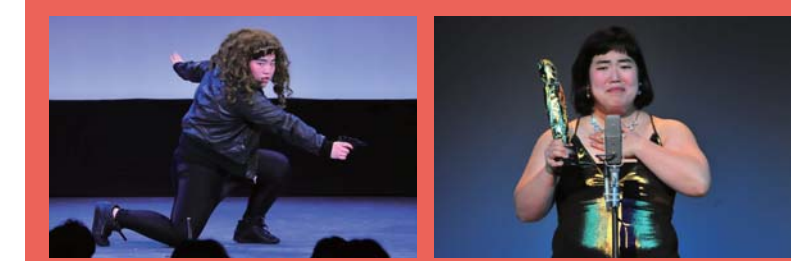
関西大学への入学の決め手は淡い女心だったと振り返る。出身校は、大学や専門学校への進学でほぼ100%を占める。高校卒業と同時に吉本興業の養成所に入るつもりだったが、「1学年下の野球部員を好きになってもうて…」。3年生にとつて3学期は受験のための時間で、受験生にとって大事な時期。「このままやったら卒業まで会えないやん!」と思い学校に行き、周囲の迷惑になら

ないように勉強をしていた。いつしか「関西大学に入ったら、あの子に凄いやられるんじゃないか」と思いが募るようになったが、受験直前に相手に彼女ができてしまったとのこと。「その子をずっと見ていたし、告白はしなかったけど、私が好きというのは伝わっていたと思います。あはは。悔し



いから更に勉強して大学に受かりました」。

芸風の原点は映画とダンス。時空を超えるSF映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』『アダムス・ファミリー』など、80年代、90年代のアメリカ映画がお気に入り。「コントのアカデミー賞ネタでも映画のフレーズを交えています。言葉の意味は気にしません」。大学通学までの片道3時間はDVD鑑賞に費やし、映画研究とダンスサークルで知識と交友の幅を広げる日々を過ごした。大学で開催された「一発ギャグ大会」には唯一の女性参加者で2位になり、いつしか「肥えてる自分」を受け入れ、笑いに昇華するようになっていた。「英語の得意な友人から英語を教わったりしましたね。友人は航空会社のCAとして勤め、今でも仲が良いですし、大学時代の友人や知人と仕事で再会した時は感動します」。



お笑いLIVEでキレのある動きと得意の英語力で観客を沸かせる

話芸の猛者が集う芸能界——。「何をやっても誰かのまねとやられてしまいますから、全部できるようなオールマイティな芸人を目指しています。面白い存在になれたらそれでいい。今は25歳だから35歳までには結婚をして、それまでに自分革命を起こしたい。もちろん結婚後も仕事は続けます」と将来像を描く。「在学生の皆さんも一生懸命頑張って私のようなスーパーモデルになってください!調子乗っちゃってー!」。多彩な趣味に特技、繊細かつ大胆な女心を併せ持つゆりやんレトリィバァさんの挑戦は、始まったばかりだ。

ゆりやんレトリィバァ (吉田有里) —よしだ ゆり  
■1990年奈良県生まれ。2009年奈良県立高田高等学校卒業。13年関西大学文学部卒業。大学在学中の11年吉本興業 NSCに35期生として入学。13年「NSC大ライブ2013」で優勝し首席で卒業。株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属。得意のダンスでキレのある動きと英語を織り交ぜた漫談や1人コントを芸風とする女性芸人。

